

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 6年 1月 20日

事業所名 こぼんはうすくら 池辺教室

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	5	4	お子様が集中しやすいよう個室をご用意して個別を行っている。	お子様が増えたことで、個別の時間が押してしまう事があるため、空間の構造化を図り、時間的、人力的に余裕が出るようにしている。
	2 職員の配置数は適切であるか		9	場所の構造化・放デイ職員の力を借り、活動場所を分けるなど	放デイ職員のご協力を得て現在は落ち着いているが、新しいご利用者様が入った際の職員さま方のご負担が大きいため、構造化や場所の構造化について検討中。
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	2	7	事業所が2階にあるためバリアフリーではない。トイレは幼児向けのサイズになっているため体の小さなお子様にも馴染みが良く、トイレトレーニングなどが行いやすい。	部屋の中はケガに繋がらないよう工夫されているが、お子様同士がぶつかりケガに繋がることがあるので、要所、要所に職員を配置し、ケガに繋がらない工夫をしている。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	8	1	2歳～6歳までのお子様がいるので、活動内容によって、場所を区切るなどの工夫を行っている。	換気のために窓を開けているが、一部のお子様が悪から物を投げたので、職員を配置し危険対策を行っている。
業務改善	5 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	1	8	情報の共有は行っているが、非常勤の職員様は帰宅時間が早く、情報共有が難しい事がある。	会議内容をまとめた議事録を開示、いつでも読んでいただけるよう準備は行っているが、分かりやすくまとめることが目標。
	6 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	4	3	常勤の一部のみしか評価を取りまとめていないため分かりにくいと感じる。	朝礼や新聞で、評価結果の開示をお伝えしているが、非常勤を含めた職員様たちが見てくださっているかは分からないので、しっかりとお伝えを行う。
	7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	5	3	行っている。	確認したが見つけられなかったという意見あり。公開の時期など詳細をご存じでない場合があるので、それをお伝えする。
	8 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	2	5		
	9 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	5	4	管理者が行っている。	分からない事を質問すると、管理者がすぐにその事に関する研修を行ってくれるので、とても助かっている。
適切な支援の提供	10 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	1	6	アセスメントはしっかり行っているが、主観が入ってしまうことがあり反省している。	物事を俯瞰的にとらえることが苦手なため、意識して客観的にとらえられよう日々、努力しているが、難しいと感じている。
	11 子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	4	2	ガイドラインに則ってそのお子様にどんな支援が必要か考えることが多く、アセスメントツールは使用していない。	標準化されたアセスメントツールがあるなら、どんなことに気付けるのか使ってみたい。
	12 児童発達支援計画には、「児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	1	7	ガイドラインを基に支援計画を立てている。	必要な項目が適切に選択されているかどうか、毎回、悩みながら作成している。
	13 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	3	5	現場の職員様方は精一杯支援を行ってくださっているが、具体的なお伝えの仕方が出来ていないため、分かりにくさを作っている。	支援計画の内容をしっかりとお伝えし、業務にあたっていたらできるよう努力する
	14 活動プログラムの立案をチームで行っている	3	6	活動プログラムの立案は常勤者のみで行っている。	立案は常勤者のみだが、活動内容に関しては非常勤が主導をとり活動参加してくれている。
	15 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	8	1	プログラムのバリエーションが豊富。	季節行事などを意識的に取り入れており、内容が前年度と被らないなどの工夫を入れている。
	16 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	5	4	状況に応じて作成しているが、お子様によっては個別と集団という風に組み合わせが難しい事がある。	お子様の状況を理解できるよう、注意深く見守りながら、お子様や保護者様に寄り添った支援計画を作成できるように勉強したい。
	17 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	7	2	担当職員がイベント内容の落とし込みをするようになっていくが、情報伝達がうまくいかなかったり、ない事がある。	参加する職員全員が情報共有、役割分担できるように、丁寧に説明を行う。
	18 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	6	2	お子様の当日の状況や様子について情報共有している。	情報共有の後、どんな支援が必要か職員間で考える時間を設けると良いと思う。
19 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	9		現場の職員様が丁寧な記録を付けてくださっているため、ご利用者様の様子が分かりやすく改善につながりやすい。	具体的に支援計画に沿った支援が行われているかどうか気を付けて見守る。	
関係機関や保護	20 定期的なモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	5	3	お子様の成長が速いため、見直しの必要性は常に感じている。	必要に応じて支援計画の見直しの時期を変えるべきと分かっているが、半年に一度で精いっぱいなので、仕事の組み立てをしっかりと行う。
	21 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	5	2	現場の職員様のご意見はとても貴重で、気づきを与えてくれるので助かっている。	職員様のご意見を参考に、現場で実際に行える支援の相談を行いながら支援計画を立てる。
	22 母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	6	1	区役所や地域に密着した子育て支援の方々と協力や会議の場を設け、必要に応じて連携した支援を行うことがある。	ケース会議などを聞いても情報の共有が難しい事があり、連携支援の難しさを感じることもあるが、話し合い歩み寄り、支援の方向性を決めている。
	23 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	2	1	現在はご利用者様にはいない	
	24 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	1	1	同上	
25 移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	5	3	ご利用者様のご様子を見に、幼稚園や保育園に出向かせていただく事がある。幼稚園や保育園の方から話し合いたいと言われることもあり、連携は取れていると思う。	保護者様からのご要望も多いので、積極的に相互関係を築きたい。	

保護者との連携	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	5	3	放デイの児発管(管理者)が行っている。	児発から放デイに移行されたお子様も多いため、積極的に情報共有を行う。
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	5	3	管理者が、ご利用者様の将来を見据え、可能な関係機関への見学を精力的に行っている。	他事業所との連携は積極的に行っているが、支援の方向性が違うこともあり難しさを感じている。話し合いの機会を出るだけじゃなく、統一された支援を目指したい。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	2	6	幼稚園や保育園にご利用者様を連れていき交流することは現実的に難しい(断られてしまう)。外部支援の一つとして地域ケアプラザさんなどと連携を図り、地元の体験や活動に参加させてもらっている。	非常勤の方に「あまりないように思う」とのご意見をいただいた。活動内容をお伝えできていない事と、情報共有がなされていない事が反省点。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	3	4	管理者、児発管は参加している。常勤者の中にも積極的に参加したいという職員が多い。	参加したくとも出来ない職員のために、部会がオンラインで行われることは非常にありがたいと感じている。また部会で顔を合わせた方々と支援で繋がる事が出来る事は非常に有益だと感じている。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	7	2	管理者は、ご利用者様の写真を付けてお手紙を書いており、保護者様から感謝されているが、自分はまだまだそこまで伝えあえていないと思う。	可能な限りお子様の様子をお伝えし、保護者様との信頼関係を構築できるように努力する。
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレントトレーニング等)の支援を行っている	8	1	管理者が行っている。	療育に関して、事業所とご家庭の統一支援は必要不可欠だと考えるので、いずれは自分でも行いたいと思うが、何をテーマにした良いのか分からないので、そのような研修があるととても助かる。
保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	1	4	契約時、伝えていたつもりだったが、分かりにくいのご意見をいただいた。	可能な限り分かりにくさを減らすために、さらに細やかなご説明が出来るよう注意しながら行う。
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	1	4	支援計画に関してはご説明を行っていたが、提供すべき支援のねらい及び支援内容に関しては説明を行って来なかった。	保護者様に伝えきれていない事は自分の実力不足だと思う。しっかりと提供すべき支援のねらいを熟知し、お伝えできるように努力する。
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	5	2	ご相談があった際はお話をしっかりと聞き助言をしているが、適切かどうかは分からない。	保護者様のニーズに応えられるよう、細やかな配慮が出来るよう常に保護者様に寄り添い考え、お伝えできるようにしたい。
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	5	2	管理者が行っており、お集りくださった保護者様の連携が取れるよう、近き悩みをお持ちの保護者様同士の橋渡しをしている。	新一年生の保護者様のご不安に、先輩保護者様をご紹介したが、その後、お付き合いを掘り下げるのが難しかったとのご意見があったので、連携後のケアも気にかけるようにする。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	7	2	対応が遅れがちである。	常に保護者様に寄り添い、迅速な対応を心掛けているが、遅れがちなので即行動に移せるよう、自分の仕事は前仕事で行えるよう努力する。
非常時等の対応	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	8	1	さくら新聞を毎月発行し、行事予定、活動概要など発信している。ブログもマメに更新している。	活動内容やお子様の様子に関して、管理者が迅速にフィードバックを作成しお渡ししているおかげで、保護者様からは感謝の言葉をいただく事が多い。
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	6	3	配布物など複数名で名前をチェックを行っている。	配布物がある際は、朝礼などで名前の確認を今一度お願いしている。
	39	障害のある子どもや保護者との意思疎通や情報伝達のための配慮をしている	8		分かりやすくお伝えできるよう気を付けている。	意思疎通は非常に難しく、保護者様が気持ちを開いてくれるように配慮しているが、意思疎通が図れているかどうかは不明。
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		7	事業所の行事に地域住民を招待することはないが、年に数回、保護者様同様のイベントを行っている。	地域住民のご理解を得るために必要であれば積極的にやりたいと考える。
	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	5	3	集団SSTで行っている。	全てSSTやイベントを通して行っているが、非常勤の職員様は出勤する日により違いがあり周知されていない様子なのでフィードバックを作成する。
42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	6	3	同上	同上	
43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	4	4	フェイスシート・アセスメントシートに記載されているが、情報共有には至っておらず改善は必要。	職員の方に、お子様の情報を開示しているが、ご覧になっていない方も多いため周知したい。	
44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	3	3	医師の指示書が必要なほどアレルギーが強いお子様はいらっしゃるが、除去食に変更となっても念のため万全の対応をしている。	食物アレルギーを持つお子様の情報を共有する。	
45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	6	2	毎日、職員日報に上げる職員、1か月ごとにまとめる職員、それぞれが役割分担し作成しているが、それをこ存じでない職員がいたことに管理者が行っている。	非常勤の職員様がヒヤリハットの事例集をご存じでなかったため、どこに入っているかお伝えし読んでいただく。	
46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	6	3		管理者の研修はとて興味深く分かりやすい。	
47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	2	4	身体拘束を考えなければならないご利用者様がいない。	そのような事になったときに備えて、事前に話し合いを行うなどの必要性を感じる。	